

×

g 57-1

美文錦袋

をはり

娛ましも、十、活潑勇壯の氣象は以て百事を企て得べし未だ以て百事をなし得べからず、

百八十六

768.6
Az

No. 1751
IR 957-1



富士川文庫

3570

心々決す軍、ハ、天、下、興、事、を、分、小

と知るべし、七、朝寝すべからず話の長座すべからず、八、小さき事に分別せよ大なる事に驚くべからず、九、九分は足らず十分は溢るゝと知るべし、十、分別は堪忍にあり、

ナポレオン、ゴールドデン、セーイング

一、人に癖あるは自然の性苟も其害なければ強て之を矯殺する事なかれ、二、死期に臨んで殊更に死を厭ふは人間の常なり、三、輿論に随ふて事をなせむ、何事かならざらん、蓋し輿論の向ふ所は天下に敵なし、四、人は猶は数字の如し其位置によつて其價を異にす、五、戦争に於て最も緊要の秘術は交通線を占有するにあり、六、軍事犯罪の裁決は厳正と急速を以すべし、七、戦争に於て舉動を決するは敵前にあり、之が準備をなすは夜間に在り、八、貨幣に汲々たる人は貨幣に依つて誘ふべし、九、美婦は目を樂ましめ良婦は心を

序



吾東方。昇平之和希。四隅。黎民鼓腹。以飽於治世。樂矣。當是時也。山田撫校。斗養一者。以箏曲鳴于海内。夙嗜古筑紫箏曲。精志研膈。採擷。取捨。以

製新曲數闋。將傳同社矣。名
謂吾孺等曲焉。而其曲也。原本
雅樂。傷及豔。舞之操。不徐不疾。
自多不言之妙也。而使聽者。其
樂融之曳之。積日溫懷如冰
泮然。而遂為一家。可謂亦然。

獨立者也。嗚呼師之績。洋洋
乎大哉。而其曲數。凡及三十有餘。
其粒之有光彩。粲然猶玄圃積
玉也。窺聽其曲者。相共請求其譜
不佞焉。於是乎。輯以上諸李
東。為一小冊。將使人免謄寫之

勞也。且深閨婦女子。以之著巾箱。
則為朝暮唱曲之便耶。而又有其
譜。刻曲亦傳於世。而使譜與曲兩
相持。而千載之後。不蠹不朽。無
乃山田氏之真面目乎。特成而叙
之。覽者察諸。

文化己巳年秋七月

重元房吉謹識



目次

弓八幡

布袋

夏やせ

めぐちあわせ

あまがら守

くねね妻母

あまがら守

竹いさぎ

春宮曲

四季の艶

山橋

かみゆき

相生

曲あ

あまづり

夏

ほやぎん

ふれ玉づり

あつまの花

えけらるゝ

むねおみ

蓬萊

ゆまの峯

はつま八景

奈須型

住吉

ふりし橋曲

あまがら守

江の崎曲

四季の段

小督曲

長恨歌曲

葵上

熊野

八重垣

追加

山登檢校作

たろろの奥 春日清

初若菜

糸の忌 西行

手まき

新七草 たまご

茶

...

...

...

...

吾孀箏譜

山田檢校斗養一作

弓八幡

松のむかし... 女流の... 乃男山... 君は... 希袋

希袋

だんてんごのまをたひかへしんかへてはらまぬ
かあのみちのちぢやてあたまのむねにくれを
まらちの神はしななぬまのさふのまか
あまのちまのちの中へにまがはしんてんは
だんてんあまのまがはしんてんあまのま
どしんあまのまがはしんてんあまのま
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん

かきん、月形かつらながるから

竹のうづ

あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん
あまのまがはしんてんあまのまがはしん

春宮曲

ふふとせよなるふ柳の花はかきも
はゆの玉はるよあまのかんざしはは月影
乃、玉くこやのまい花袖かよのおものおり
もの、梅よぼくんよ名もかたふみおとあをいハ
まふもふあづまらだてのゆもいふやをいさ
くも、春がづるおかふさむいふまどさふめ
かあり、此よのくみまのこまもふも風乃

やむ、志はげと先くもあつき、君のたまの
かたねくいとふはよあははなるつませ

四季の艶

まがもみむさだち、あやのいの先よ
くばふおの糸もいつ、ふけく卯のむ乃
衣やうきき舟入る、あやゆくのくまをき
のありやちりやれよの月、尾花ののせハ君
まねくあや、ちちまらだ、あやをいさ

あはよきと申すは、
あはあぬらうらうら^鶏のこゝろに
相生
あはよきと申すは、
あはあぬらうらうら^鶏のこゝろに
相生
あはよきと申すは、
あはあぬらうらうら^鶏のこゝろに
相生

とかいせは、
とかいせは、

曲水

あはよきと申すは、
あはあぬらうらうら^鶏のこゝろに
相生
あはよきと申すは、
あはあぬらうらうら^鶏のこゝろに
相生
あはよきと申すは、
あはあぬらうらうら^鶏のこゝろに
相生

於ちら月花交りてはさくはるの春の光
君の心もさるるにきこはるる

花妻

あはれはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ
こころはなごころのこころはなごころのこころ

あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ

夏

あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ
あはれはなごころのこころはなごころのこころ

きあやしのに無にまふしきふかまの
かぐらふらまのなまにひびきのの
きあやしのに無にまふしきふかまの
付らふかにあふたふらふの海をまふ
千箱玉章

かきあやしのに無にまふしきふかまの
ゆふくの志あふたふらふの海をまふ
かきあやしのに無にまふしきふかまの

とハナウきあやしのに無にまふしきふかまの
んかみのあふたふらふの海をまふ
かきあやしのに無にまふしきふかまの
どらめをまふのなまにひびきのの
ぬせい—あふたふらふの海をまふ
こいふのうきあやしのに無にまふしきふかまの
ありしけふあふたふらふの海をまふ
けのきあやしのに無にまふしきふかまの

だきぎいよぎさまかきよ神のまへかんよちか
 よふういごちよとちたかかつのみみ
 いのちまいやりしくみもるむはは
 のちよみちのきれさねまぶいふやち
 ぶいよりごんとかか^銀の
 えんむさじぬみちちあきあき
 せいまいきいしくねんこうき
 ぬがくもくもいでいんが

ちよませなわいろまきあはんざらち
 ねくまつきあふごきみつき

あつおれ花

よのくく^暇いふさ^無いふつ
 みるあにぬるめさうぞやみや
 まいむいしむいふさ^無あ
 いふ^無かきいふさ^無あ
 人乃いあいのあけなむあ

あふかづみのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
まみやくのやくあふかづかへりてあふかづかへりてあ
もふりてあふかづかへりてあふかづかへりてあ
ふかづかへりてあふかづかへりてあふかづかへりてあ
ふかづかへりてあふかづかへりてあふかづかへりてあ

花曆

あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ

あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ
あふかづかのなまむらさかづかへりてあふかづかへりてあ

とは...
 まは...
 金井
 南殿山
 蓬萊

おの...
 い...
 お...
 を...
 う...
 ま...
 お...
 お...

かしらをさしむるはむのいふはむらじりてはむら
たはむらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
おほきこえむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
よあむらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
えあむらじりてはむらじりてはむらじりてはむら

むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
はむらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら
むらじりてはむらじりてはむらじりてはむら

芙蓉峯

まらむらじりてはむらじりてはむらじりてはむら

と神代の事...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

緑

候

寛

裳羽衣

曲

器

自操

はまなすれをらむるのさかたに
みなるあまのたむけのさかたに
かた先とまをく

はまなすれ

なまをかたのたびみりりか
まなるなまのさかたに
たが先のたむけのさかたに
むつま

たのふとまはたむけのさかたに
おのれをたむけのさかたに
乃、はまなすれに
まなるなまのさかたに
かた先とまをく
はまなすれに
たが先のたむけのさかたに
むつま

前
 玉藻
 鴛鴦
 床
 比翼
 余衣

那須
 鳥
 松
 桂
 枝
 鳴
 蘭
 菊
 雨
 風

中はナギしなまののふとくしつなやよきうかへみし
くそれのうほり月をきこむれしひよよんを
はまきく田く出くまや秋我ののちよひの
君ぶぐんせんしーのよきちひ乃んよたえきん
おこなやふもなむあふそのたのよはあやま
ぢきもいかにしちしーたふよきしきき
とおもひにおよぶあきをちし月たぐりよ
つれくかぐ。松ののはきくふたぐ。松の

かよるあやみの祢がくしうや田はあーらの法
後ぐしなむしむ代乃かきかなきふみちのき
あそや志ゆしーるしー

子まの梅曲

^{常住}かよるあやみの祢がくしうや田はあーらの法
あやぐぬみのもちるもゆんもあなまよその
あろばしーかよるあやみの祢がくしうや田はあーらの法
あやぐぬみのもちるもゆんもあなまよその

天満神

随意

おあはれはみよのまにくと申くもの神は
 かちのまをぐく思ひたまはるふかひはあめそ
 りふあみざりむきぶてまふく電風をまふ
 まきつちのかん^神ちかん^事よものばいあめあめ
 しんおお月よあまらるが^{和光}わくくはあま^か
 ーまのた乃まらるまゆあむまよえあーあめぬ
 みちーめはゆいみいあかんあめあめあめ人
 もいんあまかみあなあまはあめあめあめあめ

あらきうゆんぐくそよあめあまあんちんあめあ
 づけいんかごのあめあめあめあめあめあめ
 おのつあし清神とゆんぐまきたまはるあめあめあ
 ありあめあめあめあめあめあめあめあめあ
 てる人ぞあめあめあめあめあめあめあめあ
 そあめあめあめあめあめあめあめあめあ
 尔本いやあめあめあめあめあめあめあめあ

横がら

おれがもつたものせりしとちいさきおれへ
き山しちりちりちりちりたのあきみ
あまのたのまのあやなくともみやう
らあめのめいもきくあはれの人ら
あこがれこそめいもきくあはれの人ら
そのせりしゆくのたのまのあはれ
こそありしあきめあり持てるあはれ
あはれなりしあはれは初あはれ

あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ
あまのたのまのあはれは初あはれ

たかにまがみだちかかろく風を吹く

江嶋曲

春もきくしわざははのなつとろもがらま
なむもびろうのせふまなのおくくまふくと
ふくじめきんまんかまぢなまちのくのみの
そしあしごもいとおだしくかやましくあゆ
きはぶじのよかきよもあよぬながんが
あはのせむかをなむいふらぬのむろよま

逢葉洞

志んき人のいそをなまよまきんさる
そびるつなねがもいさくちんあまの
なみのいさむよさぬのいよあまは
うちむいそなしくかきかきかき
はうこもぶるさくそゆくもくさ
あつらうよあひあひのい田くあ
なみのいさく見梅のむのくさ
たのむあひくになむたをあひ

まづちかたなるらるるまじりやなるかにふはるはあま
さのやまづしあまはあはあはあはあはあはあはあは
それ月日見まはるるまじりあまのみに
いあせむいふたふむいふあひのらみかのみよ
さしあおくはあまはあまのいんさく
ふちちまら一ねんちつきはあまのちあひを
あはのらむむいあまのあまのいんさく
あまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさく

いんさくはあまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさく
さのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさく
一おふめうをせんがさるるあまのいんさくはあまのいんさく
はあまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさく
あまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさく
あまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさく
あまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさく
あまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさくはあまのいんさく

紀の路乃真四季れ段

山寺れ、春のゆきをまきまきてるは、あまの

かねよ、花ぞちりさるちりもなるといふ
めでたくれな——やちいでもあふ——
——
——
はだきさ——
夏山れもあふとまなましく初ねるつ——
重あめらあふとまなましく初ねるつ——

まぐ、袖ぎふましのまなましく初ねるつ——
戸をちとくとた——
が、エ、——
を、たまよ——
先くうを衣たもま——
まきま、ちのむ——
お、は、申のつね乃よま——
鈴ち、ま、あ、——

あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき

小督曲

あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき
あつたすかしをのぞくはなはたかき

かふるもなほくむむのさかたさよりあむ
かよふもなほくむむのさかたさよりあむ
やふ代をちぎりの松乃ちやめのた
かよふもなほくむむのさかたさよりあむ

長恨歌曲

今もむしりもあつらふいろをおもい
なほみよおりのしきりておぼやうかのしよめが
しんも君よ絶やれぬあふれのおんいつ
くみあせさるべきよかいらにらん

みよあつらふ多をやめ三千のちやうあいつが
身むしりの世はなほちやういろのしよめ
あつらふをたづねみよあつらふはくをるぐ
船よるうしなみのらもきねはるふとよめ
にまよふもなほくむむのさかたさよりあむ
おこもむしりもあつらふいろをおもい
まよふもなほくむむのさかたさよりあむ
枝雨おびるそのうさむしりもあつらふ

十のふのふがんとてむねくむねんをいひし
 いのふふまきとゆりこさん乃むうおむひやる
 おうなはうけふやうくたづかながらあや
 一よのそむむしむきえはつるは申のち
 ぎらうそはうしふくふよあうそむかま
 おほいめをのやふのまはまのこちのうま
 起るのやちおもひあふうちとけくねむ
 き敷をそけるまはうけくろいぬをかこきと

ろあいがんせかむまのいろよのあをそあ糸
 乃むまむきあのきかへゆひとえくしきぬい
 心あうよまのいふかかむまむむむむむ
 かきいあしをとおもひるづいぞあうしあ
 驚破 雷裳 羽衣 曲
 乙女子のまのしむきとあここの袖もちあ
 づーちのあまのあやうのあしんあまハキ
 ひんていあまのあまのあまのあまのあま

玄の事は、
 一、月を以て時を計るは、
 二、月を以て時を計るは、
 三、月を以て時を計るは、
 四、月を以て時を計るは、
 五、月を以て時を計るは、
 六、月を以て時を計るは、
 七、月を以て時を計るは、
 八、月を以て時を計るは、
 九、月を以て時を計るは、
 十、月を以て時を計るは、
 十一、月を以て時を計るは、
 十二、月を以て時を計るは、
 十三、月を以て時を計るは、
 十四、月を以て時を計るは、
 十五、月を以て時を計るは、
 十六、月を以て時を計るは、
 十七、月を以て時を計るは、
 十八、月を以て時を計るは、
 十九、月を以て時を計るは、
 二十、月を以て時を計るは、
 二十一、月を以て時を計るは、
 二十二、月を以て時を計るは、
 二十三、月を以て時を計るは、
 二十四、月を以て時を計るは、
 二十五、月を以て時を計るは、
 二十六、月を以て時を計るは、
 二十七、月を以て時を計るは、
 二十八、月を以て時を計るは、
 二十九、月を以て時を計るは、
 三十、月を以て時を計るは、
 三十一、月を以て時を計るは、
 三十二、月を以て時を計るは、
 三十三、月を以て時を計るは、
 三十四、月を以て時を計るは、
 三十五、月を以て時を計るは、
 三十六、月を以て時を計るは、
 三十七、月を以て時を計るは、
 三十八、月を以て時を計るは、
 三十九、月を以て時を計るは、
 四十、月を以て時を計るは、
 四十一、月を以て時を計るは、
 四十二、月を以て時を計るは、
 四十三、月を以て時を計るは、
 四十四、月を以て時を計るは、
 四十五、月を以て時を計るは、
 四十六、月を以て時を計るは、
 四十七、月を以て時を計るは、
 四十八、月を以て時を計るは、
 四十九、月を以て時を計るは、
 五十、月を以て時を計るは、
 五十一、月を以て時を計るは、
 五十二、月を以て時を計るは、
 五十三、月を以て時を計るは、
 五十四、月を以て時を計るは、
 五十五、月を以て時を計るは、
 五十六、月を以て時を計るは、
 五十七、月を以て時を計るは、
 五十八、月を以て時を計るは、
 五十九、月を以て時を計るは、
 六十、月を以て時を計るは、
 六十一、月を以て時を計るは、
 六十二、月を以て時を計るは、
 六十三、月を以て時を計るは、
 六十四、月を以て時を計るは、
 六十五、月を以て時を計るは、
 六十六、月を以て時を計るは、
 六十七、月を以て時を計るは、
 六十八、月を以て時を計るは、
 六十九、月を以て時を計るは、
 七十、月を以て時を計るは、
 七十一、月を以て時を計るは、
 七十二、月を以て時を計るは、
 七十三、月を以て時を計るは、
 七十四、月を以て時を計るは、
 七十五、月を以て時を計るは、
 七十六、月を以て時を計るは、
 七十七、月を以て時を計るは、
 七十八、月を以て時を計るは、
 七十九、月を以て時を計るは、
 八十、月を以て時を計るは、
 八十一、月を以て時を計るは、
 八十二、月を以て時を計るは、
 八十三、月を以て時を計るは、
 八十四、月を以て時を計るは、
 八十五、月を以て時を計るは、
 八十六、月を以て時を計るは、
 八十七、月を以て時を計るは、
 八十八、月を以て時を計るは、
 八十九、月を以て時を計るは、
 九十、月を以て時を計るは、
 九十一、月を以て時を計るは、
 九十二、月を以て時を計るは、
 九十三、月を以て時を計るは、
 九十四、月を以て時を計るは、
 九十五、月を以て時を計るは、
 九十六、月を以て時を計るは、
 九十七、月を以て時を計るは、
 九十八、月を以て時を計るは、
 九十九、月を以て時を計るは、
 百、月を以て時を計るは、

葵上

三ツの事に於て、
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 百、

身のこまは人知らぬみのなちをさくちきし
おぬいのおかしせぬや志がーなぐはま
あづまのゆふをんまうたおまぎあうりれ出
たおちあはづーやーまゝのびるま
ちあづまの月をいなるおぬいなる
かまらうのあづまのゆふをんまうたおまぎ
をいんいんいんいんいんいんいんいん
屋のまをいんいんいんいんいんいんいん

人とならぬまはるまゝの思ぢやうらの
やれ車にめまゝのあを青ま女う房まおぢ
一きん乃半はなれまのま上ま房ま阿
おま終ふいぬかやうの人ままや
ゆらん大かハすいんやうか光たが壒おま
まはあのカもれま光ま壒ま壒ま壒
うむまき人いんいんいんいんいん
にいらまゝいんいんいんいんいん

抱ふの柱もよもみぬくあつりれ出てるをこびいの家
るものともおだめらんちまきい六条の久也^{御息所}と
乃をん^雲ちやうかりん^雲まあり^雲ふ^雲ふ^雲ふ^雲ふ^雲
ちやうの^上はれえん^真春のあ^{御遊}のま^{御遊}は^{御遊}は^{御遊}は^{御遊}
せん^{仙洞}の^{仙洞}の^{仙洞}の^{仙洞}の^{仙洞}の^{仙洞}の^{仙洞}の^{仙洞}
ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上
あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上
ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上

そ^上そ^上そ^上そ^上そ^上そ^上そ^上そ^上そ^上そ^上
ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上
あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上
ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上
あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上
ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上
あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上
ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上
あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上あ^上
ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上ま^上

此の如く... 徳 悲

か... 徳 悲

子

春よもほしおのれにまはらむとてあはれ
 花のゆきもふもたまはせし人なりけり
 一雨やうたの糸よりうたの糸ゆるりて
 水の地なきはさを人なりけり
 春よもほしおのれにまはらむとてあはれ
 花のゆきもふもたまはせし人なりけり
 一雨やうたの糸よりうたの糸ゆるりて
 水の地なきはさを人なりけり

春よもほしおのれにまはらむとてあはれ
 花のゆきもふもたまはせし人なりけり
 一雨やうたの糸よりうたの糸ゆるりて
 水の地なきはさを人なりけり

あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...

八重垣

春もやがて八杉に乃わのみぎりやるを先よ
志すはらのなきまよすの^{荒乳}あち山いこのの
なまき^日の^甲た^乙その^魚い^鯉の^鯉な^鯉ぐれむ^鯉に

あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...
あまのつらき...

せやちのうらなひのなをひらきし、
 何れあいの^{サヨハ}、
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 どのちのうらなひのうらなひのうらなひ
^{手向}のうらなひのうらなひのうらなひ
^黒のうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ

ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ
 ちのうらなひのうらなひのうらなひ

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the Japanese text on the opposite page. The characters are faint and difficult to decipher.

追加

山登檢技松和一作

あつらの奥

四季さかぐ乃そのたふ夏る卯の花を
あつらの奥さばよりよふのみおまじのま
ぢよむしよぶあせけんくす〜〜〜〜〜
かろふハあつたきものまふくみあつせ
ららの園それハあつたき〜〜〜又ナニよ
あつら〜のね乃其な〜の〜
調

くまの時よあふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに

まふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに

春日詣

あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに
あふかたのこころに

しのよかぜよすゝ幾もさむねなるあまの原らけ
 神々しくまゝのねふちの海の流れはたれ
 月ののどぐむしーの人乃かゝるそとるやうなめ
 のきぬかまゝ一柳よ一義ちる梅の舟をたぐり
 けいごふのそのゆるいもいおもひおの梅よも
 くやぐるるまの橋をたぐりたまのあなぐ
 やすむしーくゝ思はんまのかたよ橋の里
 いやむらかしよあまづや板屋ぶたゝ玉

あられすきく雲のたぐりーはくはくあめ
 白妙よたぐりーあまのいはくはくかたの
 まれあふあゝかゝるしーあまのたまのたま
 初若菜

小松系末のよこひよもいれてや君あゝあまの
 のあま朝戸出もよよまわりのむそむしはむよ
 まぐ朱かま崔あまあま賀皇恩く乃市嶺よあまたま
 まんぞいらいやかん賀皇恩おしよのさだまのたまひ

の袖、ぬめりも、まき、み、あ、さ、び、よ、お、の、く、た、ら、後、
 い、ま、た、ま、よ、か、お、ぐ、ら、の、え、の、人、く、よ、も、た、に、た、る、
 珠、も、や、う、ぶ、き、や、う、た、ま、は、な、い、が、も、な、の、お、の、よ、光、る、
 君、よ、い、き、ん、の、た、も、い、お、ん、が、い、か、し、Sifhamei、in、
 こ、も、た、ま、は、い、た、ま、も、た、ま、ぞ、し、や、あ、る、は、か、ん、
 申、た、ら、ぬ、の、十、二、ら、り、十、二、乃、ら、ぬ、一、や、ま、も、あ、
 ひ、の、お、れ、六、段、九、段、八、段、の、美、ま、ゆ、の、も、お、る、あ、
 す、め、い、い、ま、ぞ、た、い、ら、ぬ、か、い、ま、の、お、も、た、ら、い、お、ち、
 ぶ、か、い、ま、い、ま、い、曲、と、や、井、の、い、ま、い、ち、あ、う、た、た、い、ら、ぬ、
 お、も、い、ら、ぬ、お、の、く、と、あ、ら、や、い、か、の、い、ら、ぬ、ま、ぞ、い、人、
 づ、お、も、い、ら、ぬ、その、中、ま、ぞ、い、ま、い、橋、の、ま、枕、を、あ、
 か、せ、い、た、ま、よ、い、ま、い、ら、ぬ、お、の、い、ま、い、の、波、が、い、
 の、い、ま、い、^{直衣}の、袖、あ、も、い、ま、い、の、あ、ま、い、中、た、あ、ら、
 づ、あ、ら、や、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、
 後、た、ま、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、
 い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、

の袖、ぬめりも、まき、み、あ、さ、び、よ、お、の、く、た、ら、後、
 い、ま、た、ま、よ、か、お、ぐ、ら、の、え、の、人、く、よ、も、た、に、た、る、
 珠、も、や、う、ぶ、き、や、う、た、ま、は、な、い、が、も、な、の、お、の、よ、光、る、
 君、よ、い、き、ん、の、た、も、い、お、ん、が、い、か、し、Sifhamei、in、
 こ、も、た、ま、は、い、た、ま、も、た、ま、ぞ、し、や、あ、る、は、か、ん、
 申、た、ら、ぬ、の、十、二、ら、り、十、二、乃、ら、ぬ、一、や、ま、も、あ、
 ひ、の、お、れ、六、段、九、段、八、段、の、美、ま、ゆ、の、も、お、る、あ、
 す、め、い、い、ま、ぞ、た、い、ら、ぬ、か、い、ま、の、お、も、た、ら、い、お、ち、
 ぶ、か、い、ま、い、ま、い、曲、と、や、井、の、い、ま、い、ち、あ、う、た、た、い、ら、ぬ、
 お、も、い、ら、ぬ、お、の、く、と、あ、ら、や、い、か、の、い、ら、ぬ、ま、ぞ、い、人、
 づ、お、も、い、ら、ぬ、その、中、ま、ぞ、い、ま、い、橋、の、ま、枕、を、あ、
 か、せ、い、た、ま、よ、い、ま、い、ら、ぬ、お、の、い、ま、い、の、波、が、い、
 の、い、ま、い、^{直衣}の、袖、あ、も、い、ま、い、の、あ、ま、い、中、た、あ、ら、
 づ、あ、ら、や、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、
 後、た、ま、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、
 い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、い、ま、い、ら、ぬ、

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

西行

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page or as a separate entry. It is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

一のあいにしはふらふらのを一握ふここの
 志をちのみにちのしむるぬをのいろくを
 たづのくくうの枕のまのすみぞめ様
 うつらふまの花乃ふちやまのまをいかに
 こをのかがみよまのんまをまの柳のけ

手挽

まなまのしんまのまをまをねのまをい
 ちのちのまをまのまのまをまのまを

魚ん一、秋をなせやうの油もぬれなすい
 かいのぬるせのあぢよまをいこむうおれ
 ちんぞしんまをまのまのまをまのま
 こつたむまびすまはゆのまをまをま
 ちのまのまをまのまのまをまのま
 ちのまのまをまのまのまをまのま

秋七草

いちのまのまのまのまのまのまのまのま

いらきりいづきやうぬをさしーさあひ
 一き^龍んだら^陰にづまの冊きくのあげうけ
 ちぎるふあ^{桔梗}ちう^燕う^麦よなむく^{茶苑}をん^{茶苑}のや
 じう^地ぐ^拘みち^燕ら^麦ん^麦か^燕の^麦や^麦り^麦か^燕ら^麦づ^麦。^地
 ま^地し^拘かうよむ^燕え^麦の^麦づ^麦と^燕あ^麦い^麦い^麦む^燕す^麦が^燕ー
 の^燕ち^燕つ^燕れ^燕く^燕ふ^燕と^燕お^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や

ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や
 ち^燕の^燕お^燕ち^燕る^燕那^燕人^燕乃^燕花^燕な^燕れ^燕や

いふ事なきは、
の事なきは、
をいふ事なきは、

跋

、海の中、
中、
人を利、
をいふ事なきは、

傳入中此...
ハ人言ハ山回檢校師...
精神を凝一...
ま...
...
...
...

人...
あ...
...
...
可...
...
...

花さきよき花さきよき
儚くさるる人をも
しるす人の心
あはれなる人
あはれなる人
あはれなる人

あはれなる人
あはれなる人
あはれなる人
あはれなる人
あはれなる人
あはれなる人

亦ハ故年
 法多ハ
 固ニ
 侍
 侍
 侍

指月友人

百泰

文化己巳年季穉

百泰 治海之人書



吾孺輩譜一卷者、向年先師山田於夜、爲門弟子所令板刻也、其後章句之内、先師所始鉛槧、不少、今校正舊刻之誤謬、且吾雖憚先師之遺靈、追加拙作之唱曲於卷尾、而更復令改版訖、自後追而有製作者、附屬於後、以傳後進之同社、則可爲當流唱歌之正本者也、
 文政七年甲申春二月 山登檢校松和一誌

文化六己巳年七月刊版
 文政七甲申年二月再刻
 天保十己亥年八月改版
 明治十五年五月御届
 明治十八年三月廿八日御届
 同 年四月廿一日出版

元版主

翻刻人

讓受人

東京府平民

重元平八

扇田豊治郎

高木和助

中川仁三郎

大坂府平民
 同區鉄炮町二十五番地
 京橋區南傳馬町三丁目三番地

鷲文入

大抵亦平月

京師西南對皇門三丁目並發

中川二三

齋文入

全

高木味

全

日本對面大森西門三丁目並發

東京亦平月

重平

同 辛四月廿一日出好

本者也

即歲次辛三月廿八日

山登檢校松和一誌

即歲十五辛五月

重平

天對十

重平

又 乙卯 辛二月再

重平

又 外六日 辛十月

重平

